

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当 毎年3月31日  
中間配当を行う場合 毎年9月30日  
(その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)

公告方法 電子公告の方法により行います。  
ホームページアドレス <http://www.honyakuctr.com>  
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社  
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および  
全国各支店で行っております。

上場証券取引所 大阪証券取引所  
JASDAQ スタンダード

証券コード 2483

### ・住所変更等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ・未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### 見通しに関する注意事項

この報告書には、翻訳センターグループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で入手可能な情報から判断した見込みであります。世界経済の動向、税制や諸制度などに関するリスクや不確実性を際限なく含んでおり、実際の業績や結果は当社の見込みと異なる可能性があることをご承知おきください。

## 個人投資家向け会社説明会 開催案内

開催日 **2012年12月5日(水)**

時間 14:40~

会場 東京証券会館8階ホール

主催 (株)大阪証券取引所

### 【詳細・申込先】

<http://www.morningstar.co.jp/stock/IR/meeting/detail121205.html>

開催日 **2012年12月11日(火)**

時間 13:00~

会場 日本投資環境研究所9階ホール

主催 (株)日本投資環境研究所

### 【詳細・申込先】

<https://j-iris.smktg.jp/public/>

## ホームページのご案内

<http://www.honyakuctr.com>



当社ホームページにおきましても最新のトピックスをはじめ、様々な情報をご案内しております。

詳しくは ▶▶▶



株式会社 翻訳センター

お問合せ先

〒541-0056  
大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号  
Tel: 06-6282-5010  
e-mail: info@honyakuctr.co.jp



## 第27期 中間期のご報告

2012年4月1日 ▶ 2012年9月30日

株式会社 翻訳センター





## 翻訳事業のさらなる専門化に加え 通訳事業への本格進出により 言葉に関する事業領域を拡げていきます



### Q 第27期上期の総括と、業績予想の上方修正の要因は？

**A** 企業のグローバル展開の加速と(株)アイ・エス・エスの子会社化が業績を押し上げました。

昨年の東日本大震災の影響から、日本経済が徐々に復興に向けて動き出す中、各企業のグローバル展開、とりわけ新興国向けの展開が盛んになり、翻訳事業の追い風となっています。当社グループの第2四半期連結累計期間の業績は、5月11日に公表した業績予想を上回る、売上高3,027百万円(前年同期比20.9%増)、営業利益140百万円(前年同期比6.8%減)、経常利益139百万円(前年同期比6.1%減)、四半期純利益69百万円(前年同期比12.7%減)を達成いたしました。

第27期の通期連結業績予想につきましても、9月に上方修正を行いました。その要因は、前期から好調を維持している工業分野、回復傾向に入った特許分野、依然、堅調な推移を続ける医薬分野など、既存事業の好調があげられます。

そしてもうひとつ、9月3日に(株)アイ・エス・エスの全株式を取得し、連結子会社化したことに伴い、連結範囲が拡大したことも大きな要因となっています。

### Q 9月に発表した第二次中期経営計画とは？

**A** 「すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ」を目指します。

当社グループは、経営ビジョンを「すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ」と定め、2015年3月期までの3か年を対象とする第二次中期経営計画を策定いたしました。

日本企業の海外進出だけでなく、海外企業の日本市場への参入も含め、グローバル展開は今後ますます加速するとみられます。当社グループは、翻訳のみに留まらず、言葉に関連したあらゆるサービスでお客様の幅広いニーズに対応し、新たな需要を獲得していく所存です。

翻訳以外の多様なニーズに対応するための「事業領域の拡大」、翻訳会社として30年近い歴史を持つ当社グループが培ってきた情報資産のデータベースを、ITなどを用いて高度に活用する「情報・経験の集約と活用」、経営ビジョンの中の“コンシェルジュ”という言葉が表すように、常にお客様の視点から解決策を明確にし、「お客様の期待を上回るサービス品質」を提供すること。この3点を基本方針とし、計画の実現に取り組んでまいります。

### Q 第二次中期経営計画の柱となる重点施策は？

**A** 3つの重点施策を成長エンジンに、さらなる事業拡大を図ります。

まずは、「(株)アイ・エス・エスの子会社化による事業領域の拡大」があげられます。(株)アイ・エス・エスは通訳事業会社として、また通訳者／翻訳者の育成事業においても高いブランド力を保有しており、翻訳事業を中心に運営してきた当社グループにとって新たな領域への本格進出が可能になりました。

2点目は、「専門性の強化」です。4月に設置したローカライゼーション推進部によるマニュアルの多言語翻訳などの拡充や、海外特許事務所との連携による外国特許出願業務の増強、翻訳だけではなく新薬開発試験などのレポート作成の段階から文書作成を請け負うメディカルライティングなど、既存分野での専門性の強化を進めてまいります。

3点目は、4月に設置した品質管理推進部を中心とする「翻訳制作体制の増強」です。また、翻訳支援ツール『HC TraTool』などの翻訳プラットフォームの活用も推進してまいります。

### Q 株主の皆様へ、メッセージをお願いします。

**A** 成長に応じた安定配当で、株主様の長期的ご支援にお応えします。

国内市場が成熟化する中、企業が新たな市場を求めめるためには海外へ出て行かざるを得ないのが現状だと思えます。それに伴い翻訳需要は、今後も増加していくことでしょう。その際に、「すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ」として、企業のグローバル展開を支援していくことが、当社グループの使命であると考えております。

そして、成長に応じたかたちで、株主の皆様への安定・継続的な配当、さらには増配を目指してまいります。皆様には、今後とも当社グループの事業や経営ビジョンをご理解いただき、引き続きご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

2012年11月

代表取締役社長 康 郁男

## TOPICS

### (株)アイ・エス・エスを子会社化

#### ごあいさつ

この度、(株)アイ・エス・エスの代表取締役社長に就任いたしました二宮俊一郎でございます。(株)アイ・エス・エスは日本の通訳業界の黎明期に創業され、常に通訳業界をリードしてまいりました。ISSグループは、通訳／国際会議運営事業、人材派遣事業と翻訳事業を行う(株)アイ・エス・エスの他に、通訳者／翻訳者育成事業を行う(株)

当社グループは、言葉に関する事業領域を拡大すべく、9月に(株)アイ・エス・エスを子会社化いたしました。

アイ・エス・エス・インスティテュート、および人材紹介事業を行う(株)アイ・エス・エス・コンサルティングの3社で構成されます。多様な事業構成ではありますが、すべて外国語に関連する事業です。今後は、翻訳センターとともに事業の拡大を図り、言葉のコンシェルジュとして、サービスの拡充に努めてまいります。



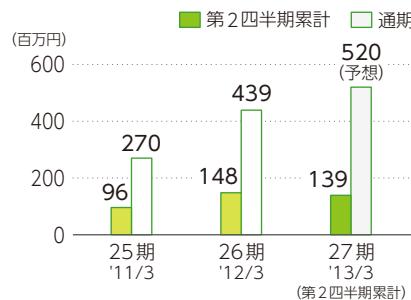
代表取締役社長 二宮 俊一郎



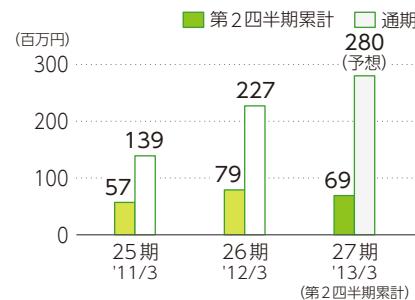
■ 連結売上高



■ 連結経常利益



■ 連結四半期 (当期) 純利益



※ ( )内数値は前年同期比増減

事業別の概況



翻訳事業

売上高 2,792百万円 (+14.6%)

特許分野

売上高 861百万円 (+21.1%)

医薬分野

売上高 872百万円 (+2.9%)

工業分野

売上高 832百万円 (+35.1%)

金融分野

売上高 222百万円 (△4.2%)

特許分野は、特許事務所から電気関連の出願用明細書の受注が大幅に増加したことに加え、企業の知的財産関連部署との取引が引き続き好調に拡大したことから、売上高は前年同期比21.1%増の861百万円となりました。

医薬分野は、年間契約を締結した複数のメガファーマからの受注や製薬会社・医療機器関連企業からの受注が堅調に推移し、前年同期比2.9%増の872百万円となりました。

工業分野は、自動車関連企業からの受注増加や海外への工場移設関連資料の継続受注に加え、電気機器メーカーからの大型案件やマニュアルのローカライズ案件などを獲得したことから、売上高は前年同期比35.1%増の832百万円となりました。

金融分野は、企業の管理部門への営業強化により社内規程案件を獲得したものの、国内外の金融機関からの受注低迷とディスクロージャー関連資料の受注量減少により、売上高は前年同期比4.2%減の222百万円となりました。

これらの結果、翻訳事業の売上高は前年同期比14.6%増の2,792百万円となりました。

派遣事業

売上高 209百万円 (+148.2%)

派遣事業については、(株)HCランゲージキャリアが業績好調であったことに加え、ISSグループの派遣事業を新たに連結対象としたことから、売上高は前年同期比148.2%増の209百万円となりました。

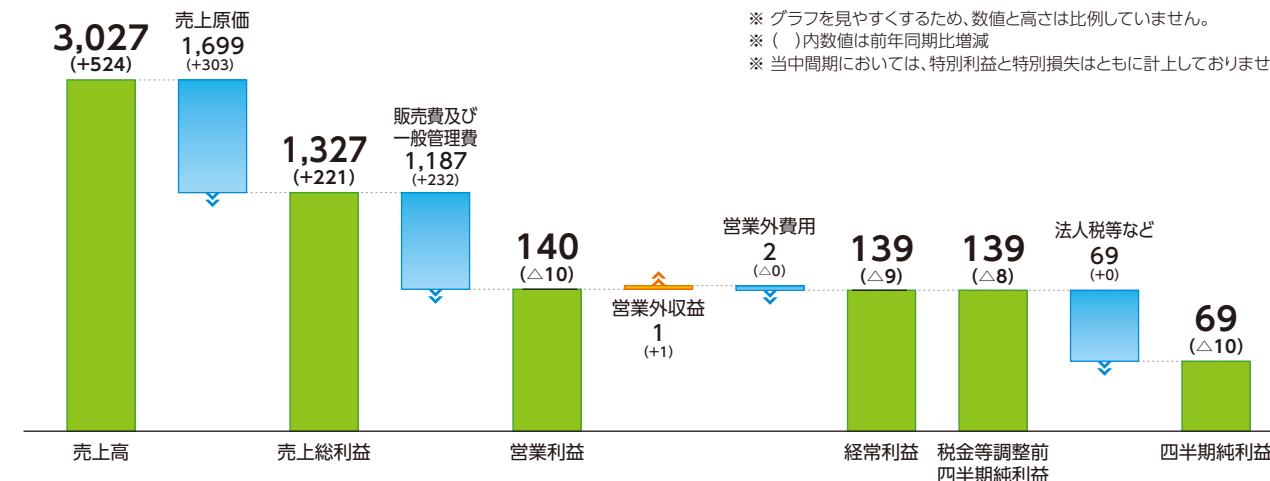
その他事業

売上高 97百万円 (+391.3%)

その他の事業については、(株)外国出願支援サービスに加え、ISSグループの通訳者/翻訳者育成事業ならびに通訳/国際会議運営事業を新たに連結対象としたことから、売上高は前年同期比391.3%増の97百万円となりました。

四半期連結損益計算書(要旨) 2012.4.1~2012.9.30

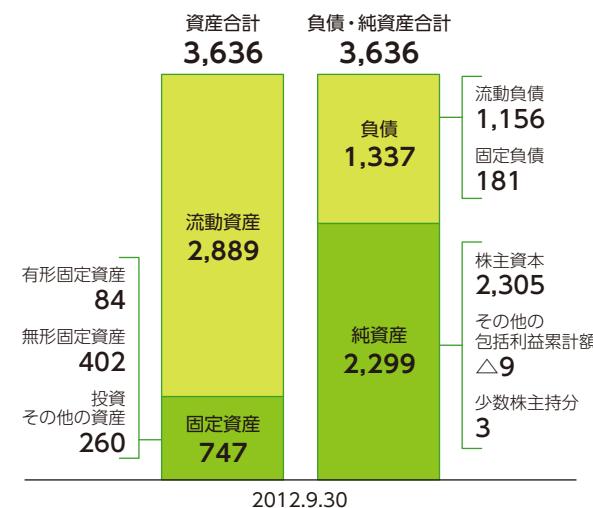
(単位:百万円)



※ グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。  
※ ( )内数値は前年同期比増減  
※ 当中間期においては、特別利益と特別損失はともに計上しておりません。

四半期連結貸借対照表(要旨)

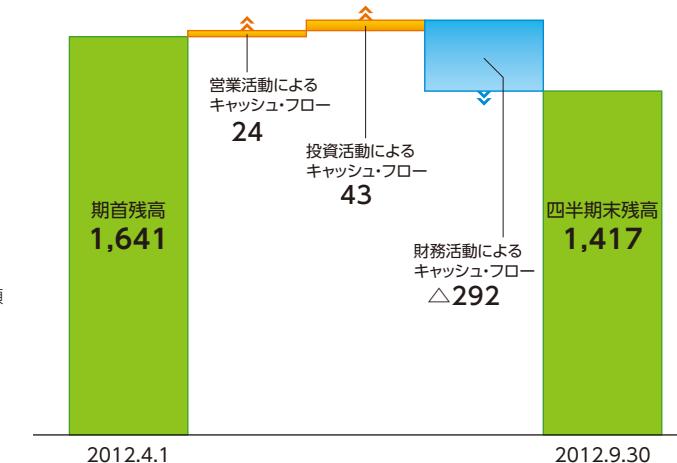
(単位:百万円)



四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

※ 現金及び現金同等物に係る為替換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。



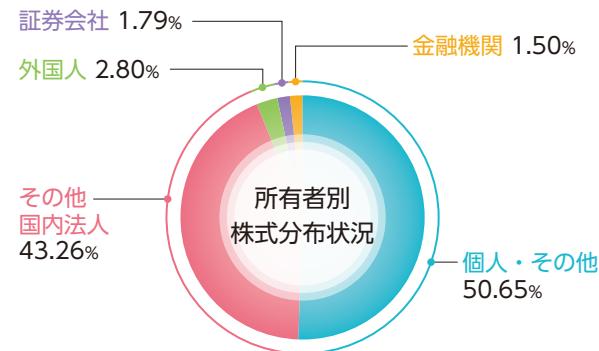


## 株式の状況

- 発行可能株式総数 51,400株
- 発行済株式総数 16,845株 (自己株式はありません)
- 株主数 1,393名
- 大株主 (上位10名)

| 株主名                            | 持株数(株) |
|--------------------------------|--------|
| 株式会社 ウィザス                      | 3,560  |
| エムスリー株式会社                      | 3,450  |
| 東 郁 男                          | 738    |
| 池 亀 秀 雄                        | 518    |
| 重 田 康 光                        | 513    |
| 浅 見 和 宏                        | 438    |
| 翻訳センター従業員持株会                   | 399    |
| RBC IST LONDON-CLIENTS ACCOUNT | 377    |
| 角 田 輝 久                        | 277    |
| 二 宮 俊 一 郎                      | 253    |

## ■ 株式分布状況



## 会社概要

- 商 号 株式会社 翻訳センター
- 設 立 1986年4月
- 代 表 者 東 郁男
- 本 社 所 在 地 大阪府大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号  
伊藤忠ビル13階
- 資 本 金 5億8,844万3,000円
- 従 業 員 359名(連結)
- 事 業 内 容 翻訳サービス業
- 関 係 会 社 株式会社国際事務センター  
HC Language Solutions, Inc.  
北京東櫻花翻訳有限公司  
株式会社HCランゲージキャリア  
株式会社外国出願支援サービス  
株式会社アイ・エス・エス

## 役員

|           |           |
|-----------|-----------|
| 代表取締役社長   | 東 郁 男     |
| 取 締 役     | 二 宮 俊 一 郎 |
| 取 締 役     | 浅 見 和 宏   |
| 取 締 役     | 中 本 宏     |
| 取 締 役     | 楠 見 賢 二   |
| 常 勤 監 査 役 | 妙 中 厚 雄   |
| 監 査 役     | 松 村 信 夫   |
| 監 査 役     | 大 西 耕 太 郎 |

## 特集

## 「第二次中期経営計画」

当社グループは、2011年3月期を最終年度とする第一次中期経営計画の積極的な取り組みの結果、翌年の2012年3月期は過去最高の売上と経常利益を達成いたしました。そして、さらなる成長に向けて新たな一歩を踏み出すため、第二次中期経営計画を策定いたしました。

## 経営ビジョン

「すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ」

## 基本方針

- 事業領域の拡大
- 情報・経験の集約と活用
- お客様の期待を上回るサービス品質

## 重点施策

(株)アイ・エス・エスの  
子会社化による事業領域の拡大

(株)アイ・エス・エスの持つ長い歴史と確かなブランドを通じて、通訳・国際会議運営事業への本格的進出や人材育成など、グループのシナジー効果を発揮し、言葉に関するサービスの多様化と収益拡大を目指す。

→ 詳しくは、P2をご参照ください。

## 専門性の強化

- ローカライゼーション
  - 外国特許出願支援
  - メディカルライティング
- の3つの高付加価値サービスの拡充と新しい専門事業領域の確立。

## 翻訳制作体制の増強

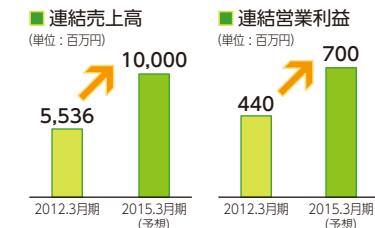
品質マネジメントシステムの構築と、翻訳プラットフォームの推進により、作業の効率化とさらなる品質の安定と向上を目指す。

## 業績目標

2015年3月期

連結売上高 100億円

連結営業利益 7億円



## インタビュー動画

「社長が語る  
第二次中期経営計画の概要」

ホームページにて動画を公開しております。こちらもご覧ください。



[http://www.honyakucr.com/ir/video\\_data.html](http://www.honyakucr.com/ir/video_data.html)